

～ 人との触れ合いの大切さ ～

夏休みの研修より・・

子どもたちの元気な声が、また学校に戻ってきました。夏休み期間中、様々な内容の研修が行われましたがその中から、改めて人との触れ合いの大切さを感じさせられたお話を紹介いたします。

幼児教育講座①

つながりあそびうた研究所長 二本松はじめ先生

二本松先生は、歌やダンスを通して人とのつながりあいの楽しさを全国各地に届けていらっしゃいます。「先生方が元気になることが、福島の子どもたちが元気になること・・」～誕生日に必ずすることは・・母親に僕を生んでくれたことを感謝してありがとうを伝えること～いじめ問題など、いろいろなことが言われていますが、『生んでくれたことを感謝できるような、そして命の大切さを感じられるようなそんな子どもたちを育てたい。』と感じた研修でした。

青少年育成大会記念講演

エッセイスト 大石邦子先生

「生きること・愛すること」と題してお話を伺いました。大石先生は、不慮の事故から車いす生活となり、その後も闘病生活を続けたりと、たくさんの試練と闘いながらもエッセイストとして活躍されています。「頑張っている人に頑張ると言うのはいけない・・と言う方もいますが、世の中には極限のところで頑張っている人もいます。頑張るしかないこともあります。でもその頑張りは、いつか必ずなつかしさに変わります。涙がなつかしさ・喜びに変わるときがきます。」「人は愛に触れたとき、変わることができるのです。どんなダメな人間でも自分をわかろうとしている人に向かって心を開いていくのです。」「人が人を信じなくて、人といえるでしょうか？」教員として、そして一人の人間として、深く考えさせられるお話でした。『子ども(人)を信じて、愛をいっぱい与えて、この長い二学期頑張りたい。』そんな気持ちにさせられました。

さあ、二学期のスタートです。子どもの笑顔、そして先生方の笑顔がたくさんあふれる毎日になりますように・・・。

教職員の役割は、日常の学校生活を行いながら、子どもからの丁寧な聴取りや日常の声かけに努めること。中・長期にわたって、ケアが必要な場合、途中で投げ出された状態にならないような配慮が必要です。

「子ども健康教育相談」から

7月の相談開始時から夏季休業終了間際まで、連日、発達心理検査の要望に応える毎日が続きました。検査実施にあたっては、電話による予約の受付と本人の状態把握を行い、その後の来所による検査実施の際には保護者からの聴取りも行って懇談しています。検査結果が出て、解釈が済み次第、「データ」をふまえて直接保護者に説明しています。発達心理検査は、人間の個人差を客観的に、標準化された手順によって測定し、理解を深めようとするものです。



子どもたちの心のケアについて

＝教師とスクールカウンセラーが連携して
取り組んだ子どもの心のケア＝

事例：A中学校

平成21年8月に起こった水害により、A中学校では半数の生徒が被害にあった。一時親戚宅に身を寄せる生徒が多数いた。仮設住宅に入居した生徒、災害の関係で保護者の勤務先が変更になった生徒、やむなく転居した生徒もいた。生徒、保護者とも生活環境が激変し、強いストレスを多く抱えることとなった。そこで、A中学校では、水害の発生直後よりスクールカウンセラーと連携して生徒の心のケアに取り組んだ。

兵庫県教育委員会
「災害を受けた子どもたちの心の理解とケア」P11

支援のポイント

- ① A中学校でカウンセリングの対象とした生徒の基準
 - ・ 家族が被害(死亡・行方不明)にあった生徒
 - ・ 家屋が大きく被害にあった生徒の中で、日常生活においても不安定さを見せたり、身体症状を訴えたりするなどの症状がある生徒
 - ・ 仮設住宅へ転居したなど、家庭環境の大きな変化があった生徒
 - ・ ストレスチェックなどの結果の値が大きい生徒
 - ・ その他、担任、養護教諭から見て気になる生徒
- ② スクールカウンセラーとともに、子どもの心のケアを進める上では、教師との間でどのような役割分担をするかを明確にしておくことが重要である。

